

ヤマザクラ

2018年(平成30年)4月27日(金)発行

「緑のボランティア活動事例報告会」への出席報告

2月16日・17日の両日、東京で「緑のボランティア活動助成セミナー2018」が開催され、2日目のセッショントーク「次世代に継ぐ森づくりのための後継者育成と継続的取組」において本会の活動状況について報告を求められた関係から2日間参加してきました。

2日間のなかで感じたことを中心に報告します。

1. 緑のボランティア活動事例報告

「企業や地域との連携、会員獲得、若返りのコツを探る」というテーマで、次の3団体から報告がありました。

(1) 苫東・和みの森の挑戦・森づくり×コミュニティづくり（北海道苫小牧市）

自然体験活動指導者ネットワークえんりっと 二瓶奈津香さん

3児の子育て中に苫東・和みの森の森づくり活動に出会い、継続参加するうちに運営事務局ボランティアスタッフへ。

2013年、森で出会ったお母さん仲間と、自然体験活動指導者ネットワークえんりっとを立ち上げ、小さい子どもがいるお母さんでも、子連れで活躍できる場を作ることを目指し、「森とまだ出会っていない子ども」と「森」を結びつける活動を展開中。

(2) 自然資源循環と地域人育成の取り組み（茨城県東茨城郡茨城町）

NPO法人環～WA 代表理事 大和文子さん

茨城県茨城町に室町時代より続く農家の生まれ。人材ビジネス、原子力、環境コンサルタントを含む多種業界にて就業。NY同時多発テロ直前までの4年間を米国で暮らす。

2011年3月11日、東京の高層ビルで就業中に被災、都市部の脆弱性と里山の強靭さを目の当たりにする。2013年にNPO法人環～WAを設立。里山保全活動を軸に、自然と共生する自立型地域づくり、人づくりを目指した環境教育にも取り組む。

(3) 森づくり×後継者育成と継続的な取組みのポイント（大阪府南河内郡江南町）

NPO法人里山倶楽部 理事 寺川裕子さん

大学卒業後、不動産会社勤務→大阪府農業大学校学生→造園コンサルタント会社勤務を経て、里山保全活動にかかわり、現在、里山倶楽部の理事及び事務局を務める。大阪府を中心に森づくり、川づくりの協議会やワークショップ等、市民と行政の協働を支援するコーディネーターやファシリテーターの仕事をしている。

以上3団体から報告がありましたが、報告者全員が女性でした。森づくり団体が開催しているセミナーなどの会合で発表者全員が女性であったことは10数年参加しているなかで初めてでした。しかも3名全員がそれぞれの団体のリーダーとして活動しております。今回は、このなかから「苦東・和みの森の挑戦」の発表内容について紹介します。

発表者は子育て中の2009年に「苦東・和みの森づくり」活動に出会ってからの活動になりますが、森に来る人のキッカケ作りをしたいということから2013年に「えんりっと」を立ち上げ、現在は隣村の手伝いや障害の子供達とのかかわりなどにも活動を広げております。

「苦東・和みの森」は2007年に行われた全国植樹祭会場の跡地で、誰もが気軽にやってきて親しめる「森のコミュニティセンター」になることをめざして、2009年から活動を始めたところです。

「森づくり×コミュニティづくり」のポイントとして次の7つをあげられました。

① コンセプトは「森のコミュニティセンターを作ろう！」

森にいろいろな人たちがやってきて、それぞれが自分が楽しいと思える方法で森に関われる。

② 森林整備という言葉から一番遠そうな子育て層をターゲットに

③ 「森づくりのために人を集める」ではなく、「森で過ごしたい人たちの場作り」や「コミュニティ作り」の方法をして、森づくりを利用

④ 市内の幼稚園で行われている森遊び体験で興味のある親子を誘致

⑤ 参加者にどんどん口も手も出してもらう

⑥ お母さんの注目を集めたところで森のおもしろさ、子どもの自然体験の必要性を実体験から伝える。

⑦ 組織を拡大するのではなく、その場面に応じた協力者と協働して活動を展開する。

2 本会の活動状況の報告

(1) 2001年10月に立ち上げてから現在までの活動状況について報告しました。そのなかで立上げ当初の森づくりと観察会中心から農作業・環境教育支援・木育活動等への拡大してきたこと、定年延長等の影響もあって新規入会者の減少とくに整備担当スタッフの担い手不足と高齢化が進行していることなどにも触れました。

ただ、3.11後の復興支援などの助成金もあって、プロによる機械整備を行うことができたため、本会のスタッフ不足をカバーして実績を残すことが出来ましたが、今後多くの課題を抱えていることを言及しました。

(2) 後継者育成と継続的な取り組み

現在のボランティアのみによる活動では現在の活動を円滑に進めることは困難になってきているので、何らかの対応が必要になっていることに触れました。

その中で高齢者を中心としたボランティアによる活動は従来どおりできるような環境づくりはぜひとも行っていくこととしました。

(3) 今後の取り組み

① 広報活動の充実

② 子供達の自然体験活動フィールドの整備

③ 国際ワークキャンプ活動に地元若者の参加促進

松崎 記

【森林整備班】

1. 森林整備班の定例活動

今期の活動は山荘周辺・里山整備と観察歩道の安全対策（枯れた松等の伐倒処理）それに伴う伐木処理、チップ処理、薪割り作業でした。

(H29.11.18~12.27)

月/日	曜	天候	実施事項	参加者
1/6	土	曇	伐木処理作業	6
1/10	水	晴	伐木処理作業	3
1/17	水	曇	伐木処理作業	4
1/20	土	晴	伐木処理、チップ処理作業	6
1/24	水	晴	伐木処理、チップ処理作業	3
1/31	水	晴	薪割り作業	4
2/3	土	曇	伐木処理作業	3
2/7	水	晴	伐木処理作業	2
2/14	水	晴	伐木処理作業	3
2/17	土	晴	伐木処理作業	2
2/21	水	曇	薪割り作業	3
2/28	水	晴	薪割り作業	4
3/3	土	晴	伐木処理作業	2
3/7	水	晴	栗園跡地下刈り	2
3/14	水	晴	薪割り作業	3
3/17	土	晴	枯松除伐作業	4
3/28	水	晴	栗園跡地除伐作業	4
計	活動延日数 (17日)			58名

2. 定例整備以外

1月及び2~3月のワークキャンプの参加者に対して森林整備についての指導を行いました。

3. 海外林整備活動

月/日	曜	整備内容	会員・未来基地	ボランティア	計
3/17	土	整備作業、地拵え、植樹	3	33	36
3/17	土	整備作業、地拵え、植樹	3	12	15
3/18	日	整備作業、地拵え、植樹	3	12	15
3/29	木	整備作業、地拵え、植樹	2	12	14
計			11	69	80

【農業班】

農作業 2018 年春の活動報告

1. 落ち葉かき、および堆肥作りの作業

湯の岳山荘の観察道周辺で、落ち葉収集を行いました（1/15、1/22、2/12）。集めた落ち葉で、堆肥作りやビニールハウス内での踏み込み温床作り*の作業を皆で実施しました。

*温床作りの目的は、さつまいもの苗を作るためです。

2月10日に温床に種芋を伏せ、3月中旬には発芽を確認しました。



2. 春ジャガの植付けなどの作業

3月19日にじゃが芋の種芋（4品種）の植付け作業を行いました。

4月以降に、新たにイノシシ避けの囲いを新設予定で、そのための杭作りを行いました。



3. その他

- ・1月6日、ビニールハウスのフィルム破れ（約1/3の範囲）を補修しました。
- ・2月5日、ブルーベリーに寒肥を施肥。
- ・2月24日、山荘の沢水貯槽タンクから水を軽トラで運搬（1450L）し畑の貯水槽に給水。
- ・3月5日、国際ワークキャンプの若者8人が来場、堆肥作りなどを体験してもらいました。
- ・畑の寒起こし作業を引き続き行う（1/8、1/13、2/10、2/24、3/5）。
- ・風でフェンスの一部が倒れたので、杭で補強して直す（3/3）。

農作業班：太田 記

【プログラム班】

1. 学校等の支援活動

今期は次のとおり1月、2月それに3月の三か月で6件の支援を行いました。
その一覧は、次のとおりです。

No.	月 日	学校等名	学年	学習	参加者数	支援者数
1	1月18日(木)	中央台北小	4	総合学習	55	10
2	1月22日(月)	湯本第一幼稚園		木工クラフト	21	5
3	1月25日(木)	平六小	3	総合学習	43	9
4	2月8日(木)	錦東小	3	総合学習	28	6
5	2月15日(木)	平六小	3	総合学習	43	11
6	2月28日(水)	中央台北小	4	総合学習	55	5
					245	46

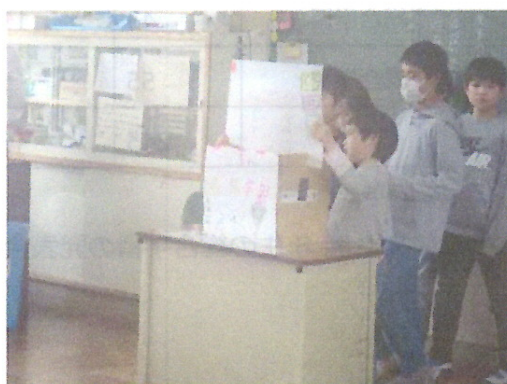
以下に湯本第一幼稚園の支援のようすと中央台北小4年生の総合学習の発表会の様子を報告します。

湯本第一幼稚園の支援は、メッセージボードに木の枝やどんぐりを貼りつける木工クラフトです。20名を超える子供たちが4つのテーブルに分かれ、いろいろな大きさ、形の木の子やどんぐりを選び、ボンドをつけ思い思いに楽しそうに貼りつけていました。一時間半かけて完成したものが次のものです。



中央台北小4年生の総合学習の支援は今年度6月、7月、11月それに1月の4回行いましたが、その学習の成果を2月28日(水)午後保護者参観日に保護者の前で発表するので、児童の1年間学んだこととそのまとめを見て、児童にコメントをしてほしいと担任教師に要請され、1年間支援したメンバーのうち都合のついた5人が参加しました。支援は組ごとに4つの班に分けて活動していたので、発表も各班ごと約10分弱の持ち時間で、それぞれ記憶に残ったものを手法にも工夫しながら発表していました。児童の発表を聞き、自然の中に入りいろいろな虫に喜び、季節の移ろいに応じて自然界のようすが変わることには驚き、また明星大学校林が滑津川流域の高久地区の住人にとって昔から里山としての役割を果たしてきたことに気づきそして笹舟のつくり方を習って、池に浮かべて遊んだ楽しさなど私たち支援者もこの1年の活動がよみがえってきました。児童たちと共有した時間は私たちにとっても宝物です。

(佐藤 烈記)



目次 主な内容)		P
緑のボランティア活動事例報告会への出席報告	1
森林整備班	3
1 森林整備班の定例活動	
2 定例整備以外	
3 海岸林の整備活動	
農業班	4
1 落ち葉かき、および堆肥作りの作業	
2 春ジャガの植付けなどの作業	
3 その他	
プログラム班	5
観察班	7
木工班	8
ろうきん森の学校	8
開催日	1平成30年1月21日	
2平成30年2月18日		
3平成30年3月18日		
森の工房」改修なる	10
国際ワークキャンプ	11

【観察班】

常緑の森の観察会

3月25日(日)9:00より、三崎公園にて「常緑の森の観察会」が行われました。

「常緑の森の観察会」は過去2回沼ノ内公園で行われ好評だったが、今回は場所を変えて三崎公園を会場としました。



三崎公園は市民に人気の公園で、散策路としての魅力が満載なので、ぜひ紹介したい公園なのだが、過去の観察会での参加者はゼロ(笑)。

しかし今回は2才～81才の参加者15名、スタッフも9名と見事リベンジを果たしました。

お天気にも恵まれ、季節柄の常緑樹、落葉樹の対比はもちろんの事、例年より10日と異常早い桜の花も1, 2輪開花し、ホトケノザやショウジョウバカマのピンク、キブシの黄色、アセビの白と早春の花々や、トチノキの粘々した冬芽などの観察ができ、参加者の皆さんにも楽しんでもらえました。海と、常緑樹はいわきならではの貴重な観察会だ！



次回は5月、サンマリーナでの「海辺の生きもの観察会」。これまたレアなハマダンゴムシやチゴガニとの遭遇が期待されます。乞うご期待を！

(古川 眞智子 記)

【木工班】 活動日 毎月第1、第3火曜日の午前中

〔男子班〕 現在フロントロビー内に飾り棚を製作中です。5月頃には完成予定です。
木を生かした棚にいろいろな作品を並べてみたいと思います。お楽しみに。

〔女子班〕 昨年11月から取り組んできた萩の小枝を利用したミニログハウス（大きさ約10cm×12cm）を見本のハウスを参考に各人が工夫を凝らして枝の選別、切り欠き、組み立て等苦勞しつつ2月に完成させました。

3月はメモ用紙立てと松ボックリ、ドングリ他の材料で花炭を作りました。

〔桑原 記〕



【ろうきん森の学校】

I.平成30年1月21日（日）（天候・晴）

1.実施内容

①自然観察会 ②餅つきと団子差し ③木工クラフト（子ども対象）

2.参加者 39名

3.実施結果

自然観察会は2班編成で冬芽の観察を中心に実施しました。その後臼と杵を用意し、餅つきをしました。

参加した子供も一生懸命杵を振り上げていました。またミズキの枝を用意しそれに団子を差しいろいろ飾りつ

けた昔から当地方に伝わる団子差しを作りました。昼食はつきたての餅とキノコ汁。午後は子供中心にクラフト体験を実施しました。



Ⅱ.平成 30 年 2 月 18 日 (日) (天候・晴)

1.実施内容

①自然観察会 ②森の手入れ体験 ③木工クラフト (子供対象)

2.参加者 39 名

3.実施結果

自然観察会は 2 班に分かれて、ロゼット探しを行いました。その後昨年昔の棚田を復元した場所の笹刈りを行いました。お昼にカレーライスを食べた後、子供たちはブンブンコマを作って遊びました。



きれいな花が咲くようにササを刈っています



ブンブンコマ、高速回転！

Ⅲ.平成 30 年 3 月 18 日 (日) (天候・晴)

1.実施内容

①自然観察会 ②キノコ植菌体験

③木工クラフト

2.参加者 34 名

3.実施結果

自然観察会は春の息吹を探すことをテーマに実施しました。まだ全体的には茶色の地面からフキノトウが頭を出し、スミレ、オオイヌノフグリ、シュンランの緑の葉も伸び花を咲かせていました。ウグイスカグラも花をつけ、テントウムシがはい出し、イモリも出てきました。

また、コナラの楯木にシイタケ菌のコマ打ちをして、保管場所まで運びました。

昼食は昨年収穫したキノコご飯にキノコ汁で、午後は、親子で工作をしました。

今回は割りばしと輪ゴムを使って割りばしゴム鉄砲を作って、遊びました。

(佐藤 烈記)



「森の工房」改修なる

「森の工房」は雨天時の研修や木工クラフトの場所として利用しており、本会ではなくてはならない施設です。

しかし、完成しておよそ 10 年が経ち、デッキのいたるところが長年の雨により穴があき危険な状況になってきました。そこで、林さんの指導のもと会員の協力で、デッキ全部を新たに作り直し、またこの際に床や壁も塗装し直しました。

ご協力くださった皆さまに感謝いたします。

(木田記)



強力な助っ人「木工班メンバー」



土台修理中！



床をはがした状態



床修理



床塗り

完成→



【国際ワークキャンプ】

○ 1月24日から1月28日までの5日間、カンボジアの大学生によるワークキャンプを実施しました。

メンバー リーダー 日本人女性NICE事務局員
参加者 大学生女性3名 教師男性1名、女性1名
週末に日本人社会人男性1名、高校生女性1名

○ 2月27日～3月12日までの2週間、7名の参加で実施しました。

メンバー リーダー 日本人大学生男性
参加者 日本人大学生男性1名、女性1名
中国人大学生女性、ドイツ人大学生女性、
メキシコ人大学生男性、ロシア人社会人女性

1月のキャンプでは降雪の後でしたので、初めて見る雪に大変喜んでおりました。

2～3月のキャンプは天候が不順だったことから天候を見ながらの作業となりましたが、元気に2週間の日程を終えることができました。

私たちスタッフも若い人達との協働作業になれたこともあり、楽しみながら作業をすることが出来、多くの元気をもらうことが出来ました。

活動の内容は次のとおりです。

(松崎記)



トラックに杉苗を積み込み



完成したステップ前で



伐採した枝をチップーにする機械に投入



作業の後のご飯はおいしいね

月 日	天候	午 前	午 後	夜	参 加 者		
					ワークキ ャンプメ ンバー	地元メ ンバー	計
1/24	雪			ミーティング	6	1	7
1/25	雪/晴	檜木作り	伐木処理、薪移動、山 荘周辺見学		6	2	8
1/26	晴	草刈り	遊歩道補修、伐木処理		6	4	10
1/27	晴	伐木処理	伐木処理	地元メンバー との交流会	8	4	12
1/28	晴	カンボジアメンバー 帰る。チップー処理			3	3	6
2/27	晴		4:00 集合	ミーティング	7	1	8
2/28	晴	薪作り、チップー処 理	薪作り、チップー処理				
3/1	雨/晴	倉庫整理、杉苗作業	自然観察会、薪運搬	地元メンバー との交流会	7	7	14
3/2	晴	観察コースササ刈り	除伐作業、ススキ刈り		7	2	9
3/3	晴	歩道作り	伐木処理、薪移動		7	4	11
3/4	晴	観察コースササ刈り	除伐作業、伐木処理		7+1	2	10
3/5	雨	畑作業	杉苗作業		7+1	14	22
3/6	晴	フリー（市内周辺見学）			7+1		(2)
3/7	晴	植樹場所下刈り、除 伐作業	杉苗作業		7	4	11
3/8	雨	杉苗作業	山荘床修理		7	5	12
3/9	雨	山荘床修理、杉苗作 業	木工クラフト		7	4	11
3/10	曇	除伐作業	チップー処理		7	7	14
3/11	曇	遊歩道整備	伐木処理、チップー処 理	地元メンバー との交流会	7	6	13
3/12	晴	清掃、振り返り			7	2	9

〔編集後記〕春を知らせてくれる山菜たち。『苦味』がおいしく感じられますが、アーユルヴェーダ的には冬の間に体の中に溜まった重さを、身体の外に出してくれる作用があるそう。ほかにも季節の食べ物や行事は、身体にとってもいいことがたくさんあるのです。

（発 行）NPO 法人いわきの森に親しむ会

（発行責任者）木田章一（編集担当者）鈴木小百合

（事 務 局）〒972-8326 いわき市常磐藤原町湯ノ岳 2 湯ノ岳山荘内

TEL/FAX 0246-44-3273 E-mail:yunodake@gray.plala.or.jp

H P : <http://iwaki-mori.jimdo.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/iwakinomori>